

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

## 岩手県の肝炎医療コーディネーターの配置と養成に関する課題

研究分担者：宮坂昭生 岩手医科大学 内科学講座消化器内科分野 准教授

### 研究要旨：

- 岩手県における肝炎医療 Co の配置と養成に関する課題について検討を行なった。
- ・肝炎医療 Co の職種別比率の推移についてみると、2020 年度に比べ 2023 年度は多職種の方々が肝炎医療 Co を取得するようになってきた。
  - ・医療圏別に肝炎医療 Co の配置についてみると、医療圏により偏りがあった。また、各医療圏で専門医療機関となっている県立病院では、盛岡医療圏以外の医療圏の専門医療機関の肝炎医療 Co が少ない傾向が続いているので、方策が必要である。
  - ・肝炎医療 Co 養成研修会が型通りとなってきているといった課題もあるため、患者会の声を講義に入れるなど新たな試みを行ってゆく必要がある。
  - ・岩手県においてはスキルアップ研修会を行なっていないが、課題をクリアーし、行う方向を持って行く必要がある。

### A. 研究目的

肝がんの主な原因はウイルス性肝炎であるが、C型肝炎は治療法の進歩により、副作用の少ない内服薬で、慢性肝炎から非代償性肝硬変まで治療が可能となり、ウイルス排除率は約 95%以上となった。したがって、肝炎ウイルス検査を「受検」し、ウイルス感染が疑われる場合は精密検査を受けるために医療機関を「受診」して、感染が確認されれば抗ウイルス薬による治療を「受療」し、さらに治療後も定期的な検査を受け、肝発がんの有無をみてゆく「フォローアップ」が大切となる。こうした「受検」「受診」「受療」「フォローアップ」の各ステップで役割を発揮することが期待されているのが肝炎医療コーディネーター (Co) であり、その育成が全国で行われている。岩手県においても 2011 年度より養成が始まっている。今回、岩手県における肝炎医療 Co の配置と養成に関する課題について報告する。

### B. 研究方法

(1) 岩手県の肝炎医療 Co の職種別比率および二次医療圏ごとの配置状況について推移も含め精査した。

(2) また、岩手県の肝炎医療 Co 養成の課題についても精査した。

(倫理面への配慮) データは個人を特定できる属性情報を削除して用いているため、倫理面の問題はない。

### C. 研究結果

#### (1)-①肝炎医療 Co の職種別比率の推移

2020 年度 124 名、2021 年度 152 名と 2023 年度 177 名と肝炎医療 Co 数は増えているが、職種別の比率を比較した（図 1）ところ、保健師の比率は 2020 年度 54%、2021 年度 47%、2023 年度 31% と減少しているが、看護師は 2020 年度 34%、2021 年度 32%、2023 年度 34% と横ばいでいた。

2020 年度に比べ 2023 年度は保健師、看護師以外の職種が増えてきている。特に臨床検査技師は 2020 年 2% であったが、2023 年は 9% と徐々に増えてきている。

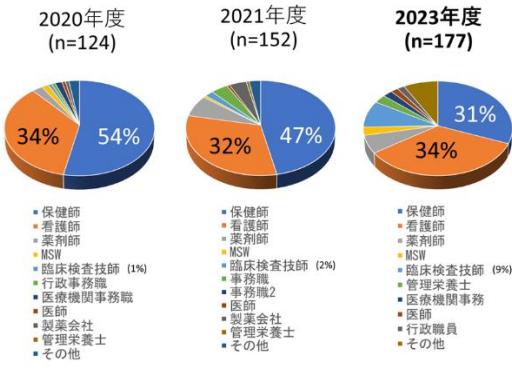


図1. 肝炎医療Coの職種別比率の推移

## (1)-②岩手県における二次医療圏別の肝炎医療Coの配置状況

岩手県の二次医療圏は9医療圏である。医療圏別にみた肝炎医療Coの配置(図2)についてみると、人口の多い盛岡医療圏と新幹線沿線の医療圏では肝炎医療Co数が多いが、沿岸部の医療圏では少ない傾向にあった。2020年度から2023年度にかけてこの傾向は変わっていない。

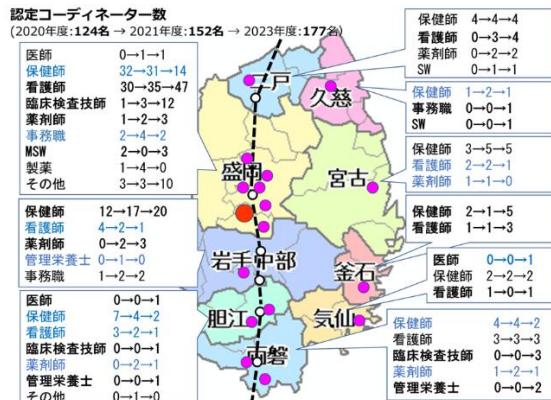


図2. 二次医療圏別肝炎医療Co配置状況

## (1)-③二次医療圏別専門医療機関の肝炎医療Coの配置

二次医療圏別専門医療機関の肝炎医療Coの配置を図3に示す。各医療圏に中核となる県立病院が専門医療機関となっているが、盛岡医療圏以外の医療圏の専門医療機関の肝炎医療Coは1~4名であり、増えていかなかった。

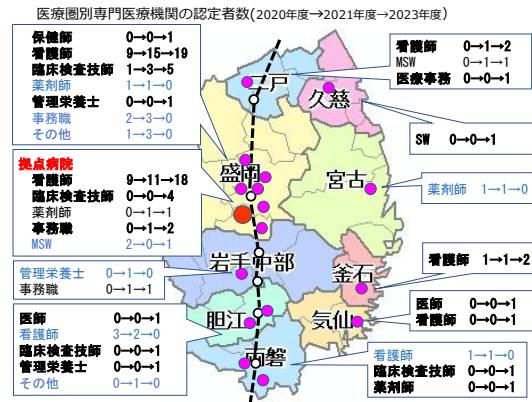


図3. 二次医療圏別専門医療機関の肝炎医療Coの配置

## (2)-①岩手県肝炎医療Co養成研修会の課題

2021年度よりWeb上で必須である6講義を聴講後、ワークショップと認定試験を受けてもらい、合格者を肝炎医療Coと認定している(図4)。2024年度の岩手県肝炎医療Co養成研修会後に「講義の配信期間」「講義の難易度」「ワークショップの満足度」「テキスト」についてアンケート調査を行なった結果(図5)概ね満足のいくものであったが、肝炎医療Co養成研修会が型通りとなってきているといった課題もある。

### 2024年度 岩手県肝炎医療コーディネーター研修会

1. 開催形式 : オンライン	講義内容
2. 講義 :	1. *肝臓の構造と機能、肝障害の循環 2. *肝炎の臨床検査法とその意義～簡便な肝検査値の解釈の比方～ 3. 肝臓の画像診断 4. 肝硬変 5. *胆汁・C型ウイルス性肝炎 6. 脂肪性肝炎 7. *岩手県のウイルス性肝炎の疫学 8. 肝がんの診断 9. ウィルス性肝炎の扱い上げの実例 10. *肝炎患者の特徴と肝炎医療コーディネーターの役割 11. *岩手県の肝炎対策について(岩手県庁 小野寺謙光)
3. ワークショップ :	● 必須
4. 試験 :	
2024年2月9日(日) 午後 5肢1~2択	

図4. 2024年度 岩手県肝炎医療コーディネーター研修会

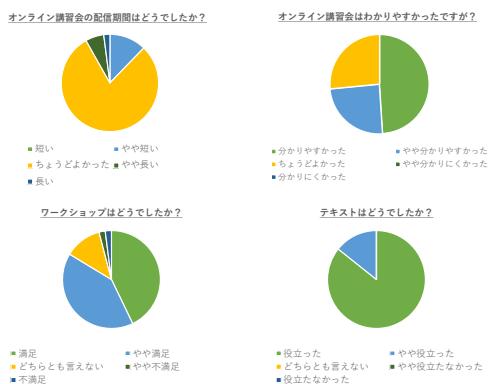


図5. 2024年度 岩手県肝炎医療Co養成研修会後のアンケート調査

## (2)-②スキルアップ研修会の課題

岩手県においてはスキルアップ研修会を行なっていないが、行なうにあつては、実施要項に盛り込むことや、主催の問題、予算の問題などいくつかの課題がある。

## D. 考察

岩手県では県主導で2011年度より肝炎医療Coの育成をはじめ、全市町村への配置が完了した。肝炎医療Coの職種をみると、2020年度は保健師と看護師が88%と大半を占めていたため、多職種の参加が望まれていた。そこで、2021年度より多職種に肝炎医療Co養成研修会への参加を呼びかけたところ、保健師、看護師以外でも肝炎医療Coを取得する方が増え、2023年度は35%が保健師と看護師以外の職種となってきた。医療圏別に肝炎医療Coの配置についてみると、人口の多い盛岡医療圏と新幹線沿線の医療圏では肝炎医療Co数が多いが、沿岸部の医療圏では少ない傾向にあった。また、各医療圏で専門医療機関となっている県立病院では、盛岡医療圏以外の医療圏の専門医療機関の肝炎医療Coが少なかったため、2022年度より肝炎医療Co養成研修会の募集にあつては、募集期間を長くし、多職種に参加を呼びかけ、各医療圏の中核病院である県立病院および一般医療機関については、科長、事務、薬剤師、検査技師、栄養士、それぞれの部署に募集要項を送ったが、2023年度の専門医療機関の肝炎医療Coは1~4名であり、増

えていなかつた。そのため、岩手県の県立病院担当者と話しをするなど別の方策を探る必要があると考える。

ここ数年、岩手県肝炎医療Co養成研修会はWeb上で必須である6講義を聴講後、ワークショップと認定試験を受けてもらい、合格者を肝炎医療Coと認定しているが、肝炎医療Co養成研修会が型通りとなつてきているといった課題もある。そのため、患者会の声を講義に入れる、ワークショップのテーマを変える、認定試験の形式を変える、若い人の意見に耳を傾けるなど新たな試みを行つてゆく必要がある。

そして、岩手県においてはスキルアップ研修会を行なっていないが、課題をクリアし、行う方向に持つて行く必要がある。

## E. 結論

- ・肝炎医療Coの職種別比率の推移についてみると、2020年度に比べ2023年度は多職種の方が肝炎医療Coを取得するようになつてきた。

- ・医療圏別に肝炎医療Coの配置についてみると、医療圏により偏りがあった。また、各医療圏で専門医療機関となっている県立病院では、盛岡医療圏以外の医療圏の専門医療機関の肝炎医療Coが少ない傾向が続いているので、方策が必要である。

- ・肝炎医療Co養成研修会が型通りとなつてきているといった課題もあるため、患者会の声を講義に入れるなど新たな試みを行つてゆく必要がある。

- ・岩手県においてはスキルアップ研修会を行なっていないが、課題をクリアし、行う方向に持つて行く必要がある。

## F. 政策提言および実務活動

### <政策提言>

- ・肝炎医療Coを増やしてゆく必要がある。特に沿岸部の肝炎医療Coを増やすと同時に、様々な領域の肝炎医療Coを増やす必要がある。

- ・二次医療圏の専門医療機関（県立病院）の肝炎医療 Co 数を増やす方策は必要である。
- ・肝炎医療 Co 養成研修会が画一的になってきているので、新たな試みを取り入れる必要がある。
- ・継続した活動ができるよう岩手県における更新要件を再考することが必要であると考えられる。
- ・岩手県においてスキルアップ研修も検討してゆく必要がある。

#### <研究活動に関連した実務活動>

実務活動として、岩手県肝炎医療 Co 養成研修会を企画し、実施している。

#### G. 研究発表

1. 論文発表  
なし

2. 学会発表

- 1) 吉田雄一, 鈴木彰子, 宮坂昭生, 松本主之 岩手県における肝炎医療コーディネーター養成研修会の課題と対策  
肝臓 65巻 Suppl.1 Page A245. 2024

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
特記事項なし
2. 実用新案登録  
特記事項なし
3. その他  
特記事項なし